

2023年度事業実績

2023年度においては、本学の教育理念である「愛と奉仕」の精神を礎とする Student First をモットーに、「一人ひとり」そして「人と人の出会い」を大切にする学生本位の教育を進めるとともに、研究、地域連携活動等をより一層推進した。

1 教育活動

(1) 教育方針

個々の学生に応じたきめ細かな支援を行いながら、学生の向学意欲を喚起し、より高く幅広い知識や技能を修得させるとともに、コミュニケーション能力を身に付ける教育を実践し、学生の満足度を高める教育に努めた。

(2) 教育活動

大学・大学院 736 名、短期大学 363 名の計 1,099 名の在学生(2023年5月1日現在)に対して各学部学科の特性を活かして、多岐にわたる教育活動を行った。

また、アクティブラーニングを重視した授業を拡大するなど、対面授業の充実を図るとともに、PC必携化(BYOD)について、大学では2023年度入学生から実施し、授業やクラス運営でのPC活用を進めている。短期大学においても、高校生のデバイス保有状況等を考慮して、2025年度からPC必携化を実施することとした。

① 大学

- ・ 総合人間学部言語文化学科では、55名がニュージーランドやオーストラリア、イギリス、韓国、台湾での実習や留学等に参加した。また、語学検定受験を奨励し、4名が英検2級、留学生2名が日本語能力試験「NI」に合格した。また、2024年度からの「アジアコース」「英語コース」「日本コース」の3コース制への移行に向けてカリキュラム全体を見直し、コア科目や選択科目の位置づけを再検討した。
- ・ ビジネス心理学科では、心理学の基礎理論をベースに消費者心理学などビジネスに役立つ心理学やデータサイエンスの科目を学び、地域を代表する多様な企業等において即戦力となり得る人材の養成を進め、ビジネス能力検定ジョブパス3級に24名、2級に14名が合格した。
- ・ 地域マネジメント学部では、専門教育科目に「産業活性化コース」と「社会貢献コース」を設けた2022年度からのカリキュラムについて、新科目の開始及び旧カリキュラムからの移行を円滑に行った。また、地域企業や行政、高校などとの連携を充実させ、実際の産業や公的支援の現場に赴き、学修・活動するとともに、地域社会における認知度、信頼度の向上につなげた。
- ・ 看護学部では、入学前教育や初年次教育の充実により、専門教育への円滑な移行を図るとともに、1年次から学生が目標をもち、主体的に学修に取り組める環境を整え、計画的な国家試験対策に取り組んだが、合格率は看護師では78.1%（前年度95.8%）、保健師は100%（前年度100%）となった。
- ・ 助産学専攻科では、1年課程の中で集中的に学修する専門教育を通じて、豊かな人間性と幅

広く確かな知識・技術を兼ね備え、地域社会において母子保健に貢献できる人材を育成した。助産師国家試験については、対策講座や模擬試験を活用した対策を行い、合格率は100%（前年度50.0%）となった。

② 大学院

- 看護学研究科では、看護学の動向や最新情報を取得するため学会に参加し、大学院生2名の内の1名（50.0%）、大学院専任教員の3名（100%）が学会発表を行うとともに、学内では、種々の領域が共同・協力した研究活動に取り組んだ。

③ 短期大学

- 健康栄養学科では、教育内容の改善と丁寧な学修指導に取り組み、学生に達成感と充実感を持たせる教育を行った。2022年入学者（2年コース）の6名が栄養教諭二種免許を取得するとともに、2021年入学の3年コースでは授業の空き時間を有効活用して業務従事経験を積むことで、1名が調理師国家試験に合格した。
- こども育成学科では、学生が専門的知識、技能、現場での即戦力を身に付けることのできる授業の充実を図るとともに、認定絵本土養成講座を開設し、30名が資格を取得した。また、3年コースでの苦手克服コースでは、ピアノ、作文指導等を細やかに対応した。

2 研究活動の活性化

地域ニーズに基づく研究活動、学内競争的研究費の配分及び競争的外部資金獲得を中心に活動を行った。

- 研究成果を積極的に公開するため、29名の教員が、論文発表57件、学会発表101回の計158回の発表を行った。
- 学内研究補助金には41件の応募があり、学内研究15件、教育改革3件を採択した。また、同補助金による研究成果の学内紀要「山陽論叢」への発表件数は3件であった。
- 競争的外部資金獲得については、科研費を13件5,480千円の補助金を獲得した。また、大学及び短期大学は、「私立大学等改革総合支援事業」タイプ1「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の転換」に採択（16,100千円の補助金加算）された。

3 学生募集活動の強化

- 少子化によるいわゆる18歳人口の減少も加速するなど、学生募集活動を取り巻く環境が一層厳しさを増す中で、2024年度入学生は、大学、短大、大学院合わせて341人（対前年度+16人）となり、入学定員に対する充足率は、大学では89.9%、短大で73.9%となった。

◇2024年度入学者の状況

	学部・学科	入学定員	入学者数	充足率(%)	
大学	総合人間学部	言語文化学科	60 [60]	42 [37]	70.0 [61.7]
		ビジネス心理学科	30 [30]	42 [39]	140.0 [130.0]
	地域マネジメント学部	地域マネジメント学科	50 [50]	37 [34]	74.0 [68.0]
	看護学部	看護学科	78 [78]	75 [68]	96.2 [87.2]
	計		218 [218]	196 [178]	89.9 [81.7]
	助産学専攻科	10 [10]	10 [10]	100.0 [100.0]	
大学院	看護学研究科	6 [6]	2 [1]	33.3 [16.7]	

短期 大学	健康栄養学科	80 [80]	55 [72]	68.8 [90.0]
	こども育成学科	100 [100]	78 [64]	78.0 [64.0]
	計	180 [180]	133 [136]	73.9 [75.6]
合計		414 [414]	341 [325]	82.4 [78.5]

※〔 〕内は、2023年度入学者

(1) 進化する学びや取組の発信

- 2024年度からの言語文化学科の3コース制、言語文化学科及び地域マネジメント学科を対象とする観光専修課程の創設をはじめ、3年コースを選択できる短期大学の特徴、各種の奨学制度など、各学科の「強み」や「学びのアップデート」等を紹介するリーフレットを作成し、的確かつ効果的に周知を図った。

(2) 募集活動の工夫等

- 直接、大学や短大の魅力を感じられるオープンキャンパスは、出願促進に最も重要なイベントである。近年、受験生が進路先を早い段階で決定する傾向にあるため、新規に5月にオープンキャンパスを実施し、年間7回実施した。
- 学生募集活動のための事前研修を例年より一ヶ月早く実施し、訪問時期を入試区分別に重点化するとともに、進路決定のプロセスを重視した訪問を実施した。沖縄に配置した駐在スタッフによる高校訪問を実施した。また、在学生による出身校へのメッセージを作成し、出身校訪問を実施した。
- 言語文化学科では、上代杯高校生英語プレゼンテーションコンテスト（9校17名応募）や、地域マネジメント学部では、高校生を対象とした地域マネジメントコンテスト（18校43件応募）を実施し、高校生に本学の学びに関心をもってもらうきっかけづくりを行った。
- 高校との継続的な繋がりによる信頼感を醸成し、出願者の増加に結び付くよう、大学見学会、高校への探究学習、出張授業への講師の派遣など高大連携に取り組んだ。
- 学生募集上で効果が大きかった第1回の評価を踏まえて実施した第2回アカデミックインターンシップに、26校から91人が参加した。参加者のうち、74人が3年生（4年生を含む。）で、そのうち63人（85%）が本学に入学するなど大きな成果があった。
- 社会人が学びやすいライフスタイルに合わせた学修システムである短期大学「3年コース」等のPRを行い、2名が入学した。

(3) 多様な媒体による効果的な情報発信

- 受験生向けサイト「受験生NAVI」をはじめ、大学案内やリーフレット等の印刷物、新聞広告などのマスコミ媒体、SNS・ネット広告などのWEB媒体など、多様な媒体の中から効果的なツールを選定し、オープンキャンパスへの誘導や学部の取組の紹介などの情報発信に努めた。

4 学生支援の強化

(1) 学修支援の強化

- 退学が懸念される学生について、教授会で対応策を協議し、アドバイザーやクラス顧問が

前・後期各 2 回以上の定期的な面談指導や成績不振者の保護者懇談、適時的確な就職指導を行うなど、一人ひとりへの丁寧な対応に努め、修学意欲の維持・向上等を図った。

- ・ 障がい学生の支援を行う学修支援センターを設置し、「障がい学生支援のガイドライン」を改定した。
- ・ 退学・除籍者の率は、大学は 1.5%、短期大学は 2.8%となっており、主な理由は、精神的・身体的理由、経済的理由、進路変更などであった。

◇退学・除籍者数（2023 年度）

	学部・学科		現員数	退学・除籍者	率 (%)
大 学	総合人間学部	言語文化学科	166 [172]	6 [6]	3.6 [3.5]
		ビジネス心理学科	125 [125]	2 [2]	1.6 [1.6]
	地域マネジメント学部	地域マネジメント学科	157 [162]	2 [2]	1.3 [1.2]
	看護学部	看護学科	274 [284]	1 [6]	0.4 [2.1]
	計		722 [743]	11 [16]	1.5 [2.2]
短 期 大 学	健康栄養学科		173 [166]	5 [3]	2.9 [1.8]
	こども育成学科		190 [208]	5 [9]	2.6 [4.3]
	計		363 [374]	10 [12]	2.8 [3.2]
計			1,085 [1,177]	21 [28]	1.9 [2.5]

※ [] 内は 2022 年度、現員数は 2023 年 5 月 1 日現在

(2) 生活（キャンパスライフ）支援の充実

- ・ コロナ禍で活動が制限されていた課外活動も徐々に元に戻りつつあり、課外活動への参加率は 83.1%（2022 年度 64.1%）になり、大学祭の入場者は昨年度より 3 割程度増加した。
- ・ 学生の悩みごと相談は、相談形態を電話相談、メール相談に加え、オンライン相談も実施し、相談件数は 324 件（前年度 266 件）と大きく増加した。
- ・ 外国人留学生に対して、入学時のオリエンテーションをはじめ、ビザ申請、住宅斡旋、奨学金申請、事故対応、多岐にわたる相談に対して適切な指導を行うとともに、卒業後の進路指導、就職活動の情報提供も実施した。
- ・ 障がいの有無にかかわらず学園内で自立した生活が送れるよう、2023 年度から障がい学生の支援を専門に行う組織として、学修支援センターを設置し、新たに配置した支援コーディネーターの専門性を活用し、適切な障害学生の支援に努めた。

(3) 就職支援の強化

- ・ 企業の採用活動の早期化やオンライン化が進む中、就職率の向上のため、キャリアセンターと学科アドバイザー等とが緊密な連携を図りながら、学生一人ひとりが自信を持って就職活動を行い、納得のいく就職を決めることができるよう就職支援を行った。

◇学科別就職率（2024 年 5 月 1 日現在）

	大 学			短 期 大 学		
	総合人間学部		地域マネジメント学部	看護学部	健康栄養	こども育成
	言語文化 学科	ビジネス心理 学科	地域マネジメント 学科	看護学科	学科	学科
就職率	100.0%	93.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

- ・ 低学年次から就職意識を醸成するため、「就活塾」や「留学生就職ガイダンス」、保護者や在学学生を対象にした「就職懇談会」、「卒業生による学内業界研究会」、「栄養士業界研究会」、「実習病院就職説明会」、「保育士合同面談会」を実施した。また、「就職支援バスの運行」を4年ぶりに再開した。
- ・ 「社会人入門」、「インターンシップ」、また県内優良企業と連携した「企業協働型ラーニング」を開講し、就職支援科目の充実を図った。また、公務員を就職先と考えている学生を対象に教育課程とは別に公務員試験対策講座を開講した（基礎講座（2年）22名、集中講座（3年）8名、直前講座（4年）4名）。
- ・ 一般行政職をはじめ、警察官、刑務官や看護師、保育士等の専門職を含む公務員及び公立病院等への就職者数は34名となった。
- ・ 卒業生の就職先企業等への訪問や本学を訪れる企業との面談を通じて、情報交換を行うとともに、卒業後1年を経過した卒業生及び就職先企業に対するアンケート調査を実施し、卒業生のフォローアップと企業との関係強化に努めた。

5 地域連携の推進

(1) 地域との連携事業の推進

- ・ 地元平井学区や、包括協定先との連携・協働事業、大学間・産学連携事業などを40件(前年度30件)行った。岡山市中区との連携事業では、地域マネジメント学部は、中区の魅力・課題抽出事業「中区バスツアー」を実施した。また、看護学部は、平井地区や中区役所で市民を対象とする「健康チェック事業」を実施した。

(2) ボランティア活動の推進

- ・ ボランティア派遣要請は51件（前年度31件）と増加し、チラシの掲示や各学科への情報提供を通じて学生に周知した。
- ・ ボランティア参加者は、コロナの影響もあり大幅に増加した。
 - ・ ボランティア参加者数 436人（2021年度64人、2022年度277人）

(3) 社会人教育の充実

- ・ 本学のもつ専門的知見を地域社会へ発信するため、公開講座を2回（参加者73人）、公開講演会を1回（参加者89人）、山陽学園文化セミナー一般向け3講座・キッズ向け2講座（参加者76人）を開催した。
- ・ 聴講生の受け入れに関しては、説明会を開催し、開講科目の情報提供を行った。

(前期 1 名、後期 2 名)

6 施設整備

- ・ 学生が快適に学修できるよう、G棟の Wi-Fi 環境の整備を行うとともに、映像・音響設備など講義用機器の更新を行った。また、安全で快適なキャンパスライフを過ごすことができるよう、学内トイレの洋式化とトイレ用擬音装置の設置を行うとともに、樹木の管理などの環境整備に努めた
- ・ 建物の耐震化及びバリアフリー化の推進のため、2021 年度に耐震補強工事を行った A 棟以外の旧耐震基準の建物について耐震化を進めるための準備委員会を設置した。

7 大学運営の強化

(1) ガバナンスの強化

- ・ 合同会議、教授会議、学科会議、各ワーキンググループ会議等を円滑に運営し、決定事項を組織内で共有し、その実現のため、それぞれの構成員が役割を果たした。また、時々の課題にタイムリーに対応できるよう機動的な開催に努めた。
- ・ 自然災害をはじめとする不測の事態を想定し、緊急連絡体制を構築し、関係者に徹底した。

(2) 大学改革等

- ・ 「教育研究等の自己点検及び自己評価実施要領」に沿って、中期計画の項目の達成に向けて、事業計画、個別計画を体系化し、この体系によって点検・評価を実施する形で構築した PDCA サイクルを適切に運用した。また、個別計画の評価については、定性的評価を加味したものに改善を行った。
- ・ 2024 年度から言語文化学科を 3 コース制に改編するとともに、言語文化学科と地域マネジメント学科の副専攻としての観光専修課程を新設するなど、学びのアップデートを進めた。

(3) 教職員の資質向上

- ・ 教職員の資質向上と適正な業務執行体制を確立するため、FD (Faculty Development 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み) ・ SD (Staff Development 事務職員の資質向上のための取り組み) 研修を 8 回実施した。

(4) 広報活動の強化

- ・ 大学広報室を中心として、本学の知名度と認知度の向上を意識し、パブリシティの効果的な活用とともに、ホームページ、テレビ CM、ネット広告等を通じた情報発信を行った。
- ・ 大学広報として、ブランドメッセージ「Student First」をコンセプトにしたテレビ CM を制作、放送するとともに、学科紹介動画 (大学・短大 6 学科分) を制作し、ホームページへの掲載、オープンキャンパスでの放映などで活用した。

8 山陽学園短期大学附属幼稚園

- 大学キャンパス内の散策、園外保育での自然の中の遊び、山登りなど幅広い自然体験や栽培活動を通じた野菜の収穫体験等を通して、心動かす直接体験から好奇心や探究心を育むことにつながった。
- 大学や短期大学の教員や学生との連携により、短期大学、大学看護学科の実習園としての役割を果たすとともに、新学習指導要領に位置づけられた小学校の英語学習を視野に、幼稚園ならではの英語活動を進めた。また、地域、家庭などと連携した多様な学びの場を通して、園児に心の通う人間関係の素地を養い、人と関わる力、コミュニケーション力を育んだ。

(大学との連携) 英語学習、絵画指導、歯磨き・手洗い指導、保護者向け講演会など

(地域等との連携) お茶会、陶芸、餅つき、野菜作りなど

2023年度事業計画 数値目標達成状況

【定員の確保】			
1	2024年度の入学定員を100%確保する。	大学(2024年入学) 短大(2024年入学)	89.9 % [81.7 %] 73.9 % [75.6 %]
2	志願者数を大学600人以上、短大200人以上にする。	大学(2024年入学) 短大(2024年入学)	285 人 [303 人] 146 人 [143 人]
3	志願度の高い総合型選抜及び学校推薦型選抜による入学者を270人以上確保する。	(2024年入学)	270 人 [269 人]
4	山陽学園高校からの入学者を60人以上確保する。	(2024年入学)	60 人 [44 人]
5	社会人入学者を10人以上確保する。 ※委託訓練を含む	(2024年入学)	10 人 [12 人]
【教育の充実】			
6	中途退学者・除籍者の割合を3.0%以下にする。		1.9 % [2.5 %]
7	GPAの全学での平均値を2.4以上とする。 ※GPA値=学生ごとの授業科目の成績評価(GP:0~4)の平均値	(前期) (後期)	2.64 [2.61] 2.60 [2.58]
8	学生による授業評価が3.9ポイント以上の授業の割合を90%以上とする。(専任教員の授業)	(前期) (後期)	93.8 % [97.8 %] 96.5 % [94.6 %]
9	対話型、問題発見・解決型授業の割合を70%以上とする。	(大学) (短大)	71.9 % [65.1 %] 73.7 % [73.0 %]
10	アンケート調査により、「教育内容について満足している」と回答する学生が70%以上になるようにする。		65.9 % [61.6 %]
【資格取得の推進】			
11	看護師国家試験の合格率100%を達成する。		78.1 % [95.8 %]
12	保健師国家試験の合格率100%を達成する。		100.0 % [100.0 %]
13	助産師国家試験の合格率100%を達成する。		100.0 % [50.0 %]
【希望する就職の実現】			
14	全ての学科で就職率を100%にする。 (言語100.0%、ビジネス93.3%、地域100%、看護100%、栄養100%、こども100%)		99.2 % [98.6 %]
15	専門職への就職率を90%以上にする。[健康栄養学科] 専門職への就職率を95%以上にする。[こども育成学科]		76.4 % [66.0 %] 93.0 % [83.1 %]
【研究活動の活性化】			
16	外部資金(科研費等)を15件以上獲得する。		13 件 [11 件] 5,480 千円 [8,450 千円]
17	全ての教員が論文等の発表1件以上又は学会発表1回以上を行い、研究業績総数を100件以上とする。		36.3 % [38.3 %] 29 人 [31 人] 158 件 [163 件]
18	論文(教育実践報告等を含む)の「山陽論叢」への掲載件数を15件以上とする。 うち、学内研究補助金により行われた研究の報告論文の掲載件数を5件以上とする。		18 件 [15 件] 3 件 [6 件]
【地域連携・地域貢献の推進】			
19	学生のボランティア参加人数を延べ500人以上とする。		436 人 [277 人]
20	地域との連携事業を50件以上実施する。		40 件 [30 件]
21	社会人教育の受講者数(公開講座、公開講演会、文化セミナー)320人以上 ※文化セミナーは、大学・短大実施分		238 人 [161 人]
【その他】			
22	報道発表件数とそれを受けて実際に報道された件数を80件以上とする。		52 件 [57 件]
23	図書貸出冊数を学生一人当たり10冊以上とする。		4.2 冊 [4.1 冊]

※〔 〕は、2022年度実績